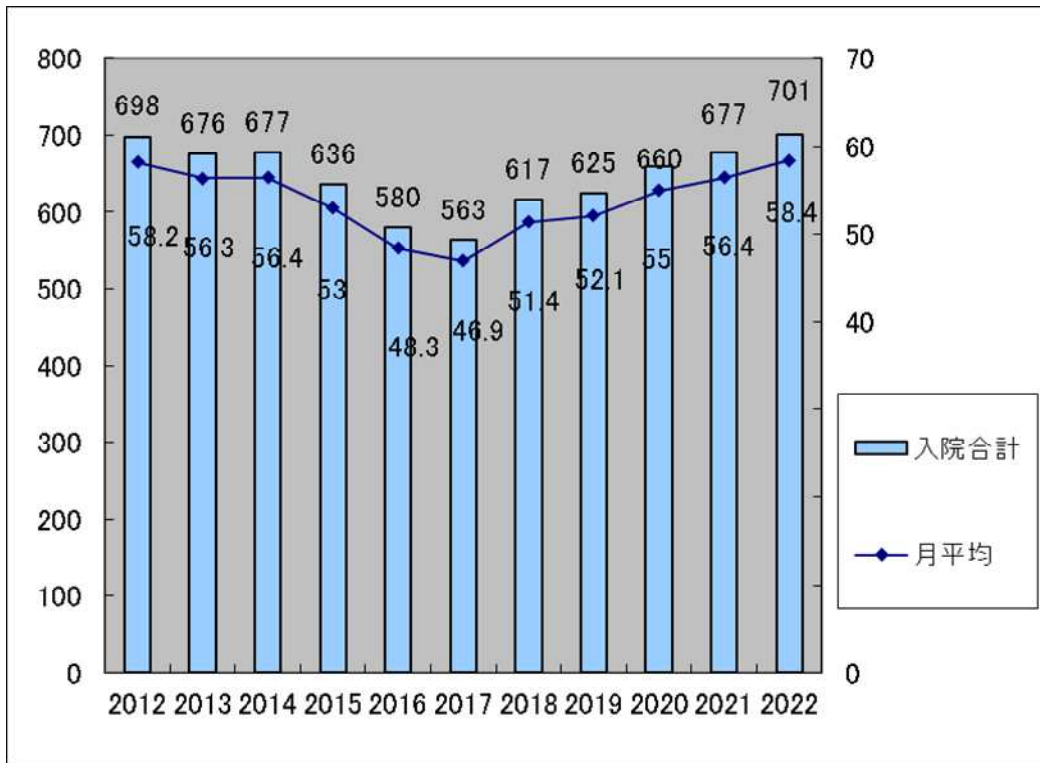


13. 地域連携部

地域連携部 部長 黒木 尚美

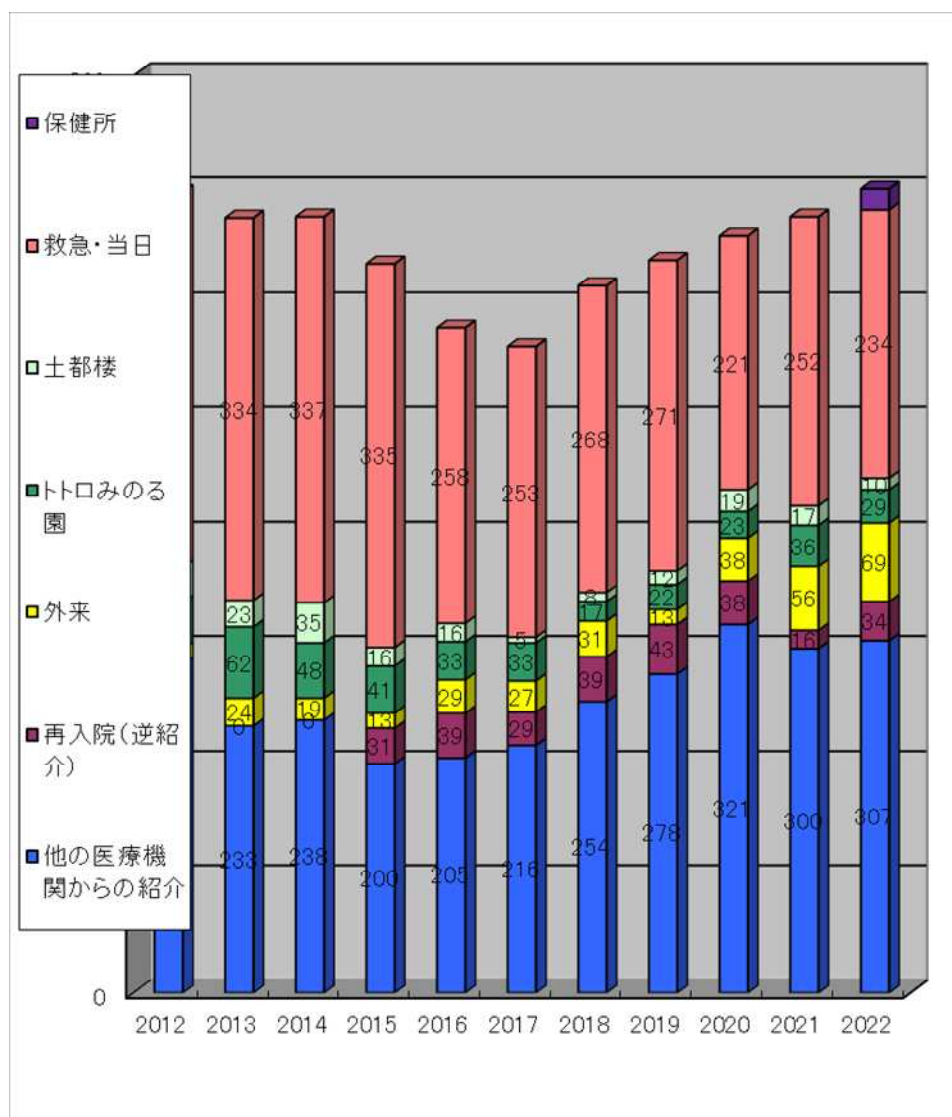
イ) 新規入院者数の推移(2012年以降:年間の合計人数)



コメント

2012年以降の新規入院者の推移。2012年が最も入院者が多かったが、2012年以来初めて2022年は年間の新規入院者が700人を超えた。2017年まで徐々に少なくなっていたが、V字回復し、入院数が増えてきている。月平均の新規入院患者は58.4人

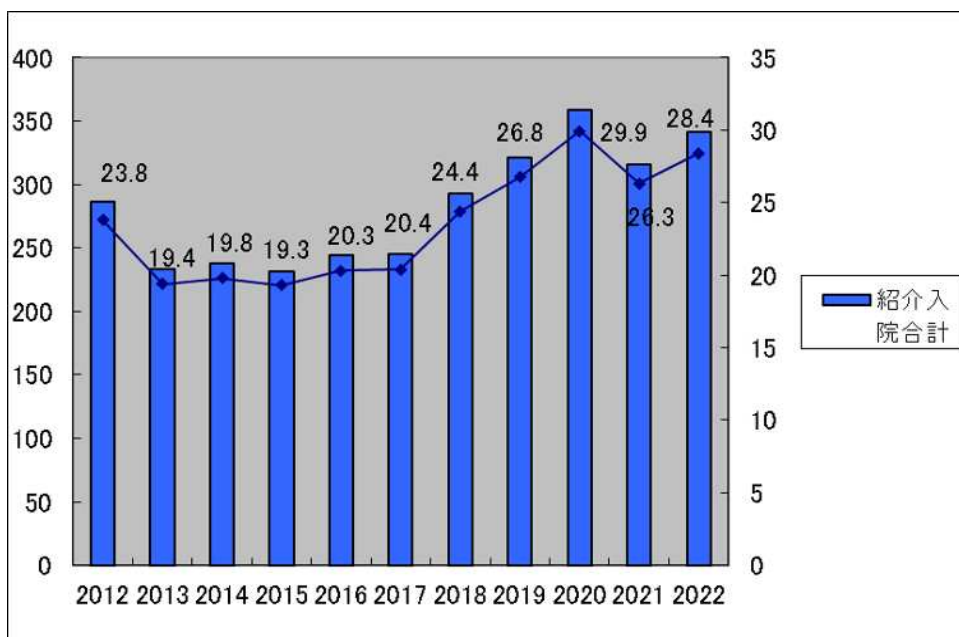
ロ) 新規入院者数の内訳(救急、紹介、外来、関連施設)



コメント

2012年以降の新規入院者の内訳、救急受け入れ、紹介入院、関連施設(トロみのる園、土都楼)からの入院、外来からの入院、に分けたもの。救急からの入院は年々少なくなってきたが、2020年の221人と比較し、2021年は252人と31人多かった。再入院数は2015年以降紹介数とは別に集計している。紹介入院は2020年が最も多く、次いで2022年となった。外来からの入院が2012年の調査実施している中で69人と最も多くなった。外来フォローを行い、治療のため入院している方、緩和ケア病棟より退院後に、入院となっている方がいる。緩和ケア病棟リフレッシュ入院後に当院緩和ケア外来管理となっている方が増えている。自宅退院後に状態急変があり、休日、夜間でも入院受け入れができることを聞き「安心して在宅で過ごすことができる」との声が本人家族、在宅の介護支援専門員より聞かれる。2022年はコロナ患者の受け入れを3階一般病棟で行うようになり、保健所の要請で年間18人が入院された。

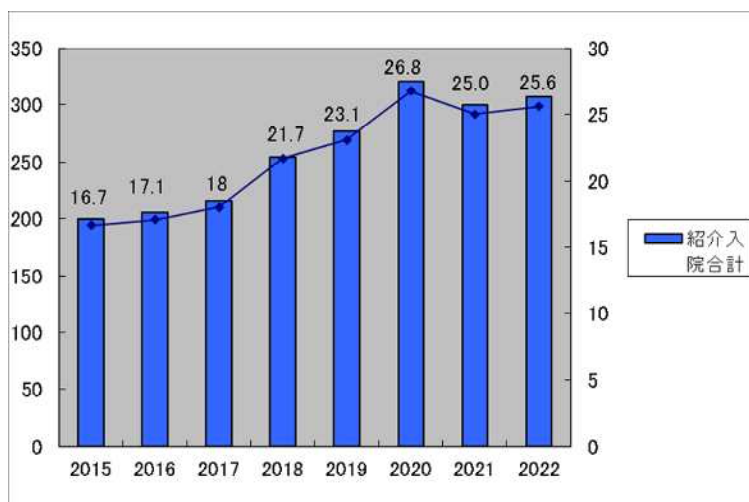
ハ) 再入院を含む紹介入院の推移(年間合計人数の推移)



コメント

再入院を含む、医療機関からの紹介入院数の推移。
 紹介からの入院は2017年と比較し年間245人から2020年は359人と、
 100人以上増加していた。
 2022年は342人であり、月平均は28.4人の紹介入院、再入院となった。
 2020年に次ぐ紹介入院、再入院人数となっている。

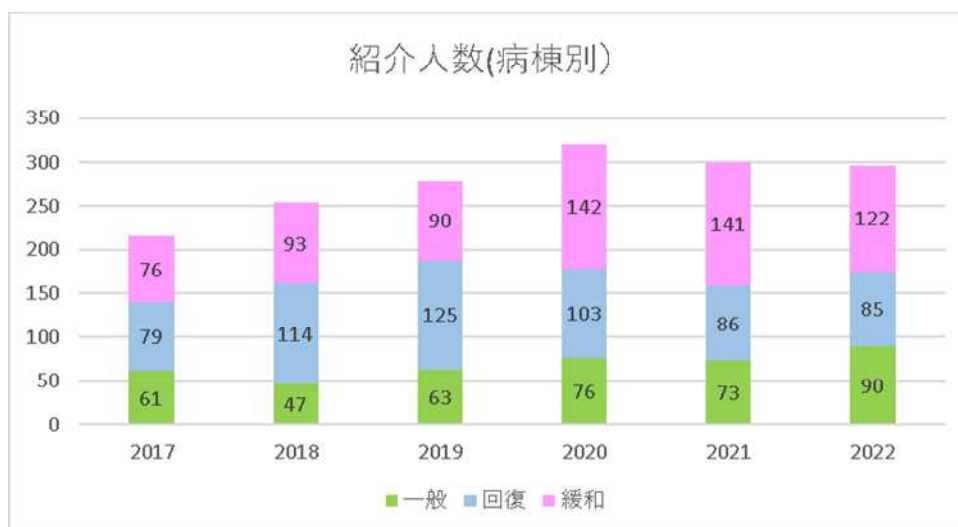
二) 再入院を含まない紹介入院の推移(年間合計の推移)



コメント

再入院を含まない、紹介入院の推移。
 2017年までは横ばい、その後2020年までは徐々に増加していた。
 2020年と2021年の2年の比較では2021年が紹介数は少なくなっていた。
 病棟別の紹介数について後述する。

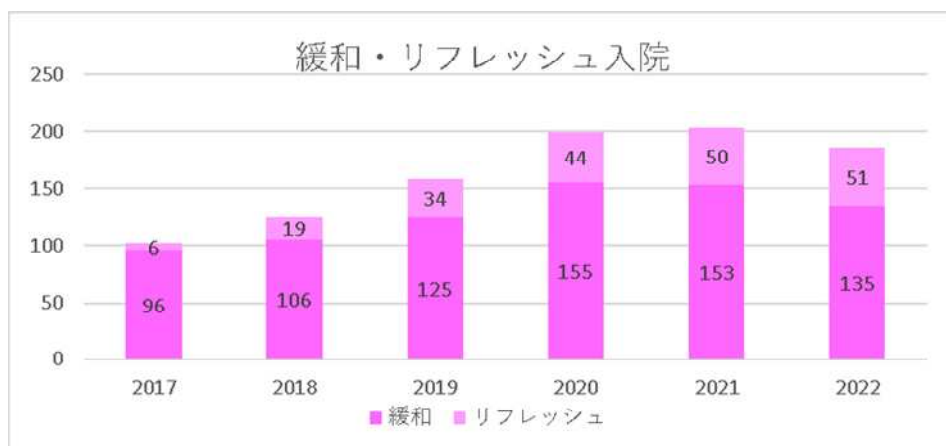
ホ) 紹介者の入院病棟(年間合計の推移)(一般病棟、回復期リハ病棟、緩和ケア病棟)



コメント

紹介入院の受け入れ病棟別の比較。
 当院の一般病棟、回復期リハ病棟、緩和ケア病棟に受け入れしているが、緩和ケア病棟への紹介が増えていたが、2020年(141人)と2021年(142人)はほぼ、同数となっていたが、2022年は紹介が前2年と比較し122人と減少した。県北には、2病院の緩和ケア病棟があったが2020年2月で他病院の緩和ケア病棟閉鎖となり、緩和ケア病棟が当院のみとなった。そのため、緩和ケア病棟への紹介が増加した。回復期リハ病棟は、延岡の他の医療機関に開設されており紹介数は減ってきている。2022年は一般病棟への紹介が増えており、2017年の調査開始以降最も多い紹介数となった。療養型医療機関が看護師不足、コロナ感染症により受け入れ制限などがあったことも影響していると思われる

へ) 緩和ケア病棟リフレッシュ入院比較



コメント

緩和ケア病棟入院におけるリフレッシュ入院の推移

2017年よりリフレッシュ入院を受け入れると県立延岡病院や医療機関訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所に広報誌を発送

また、当院にて緩和ケア病棟研修会を開催している。

癌の切除術や、化学療法で低下した食欲や体力を増進するため、疼痛緩和をはかり、リハビリテーションを実施して、自宅退院を目指す。

他の医療機関から紹介され、外来通院希望の方に、栄養指導や

倦怠感などの癌性疼痛を緩和するための、短期入院などで

在宅でのQOLが向上したケースや、入院中に介護保険サービスを

計画し、在宅生活が安心しておこなわれているといった声が聞かれている。

2021年、2022年のリフレッシュ入院者は同程度だったが、緩和ケア全体の入院は減少している。コロナ感染症により、家族との時間が摂れないという理由で在宅での看取りを希望する方も増えているため、今後も調査を継続する

ト) 緩和申し込みキャンセルの人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2021	2	1	4	1	2	2	1	0	3	1	0	3	17
2022	3	2	1	3	1	1	0	0	1	3	1	4	16

コメント

緩和ケア病棟の申し込みをしていただいたが、

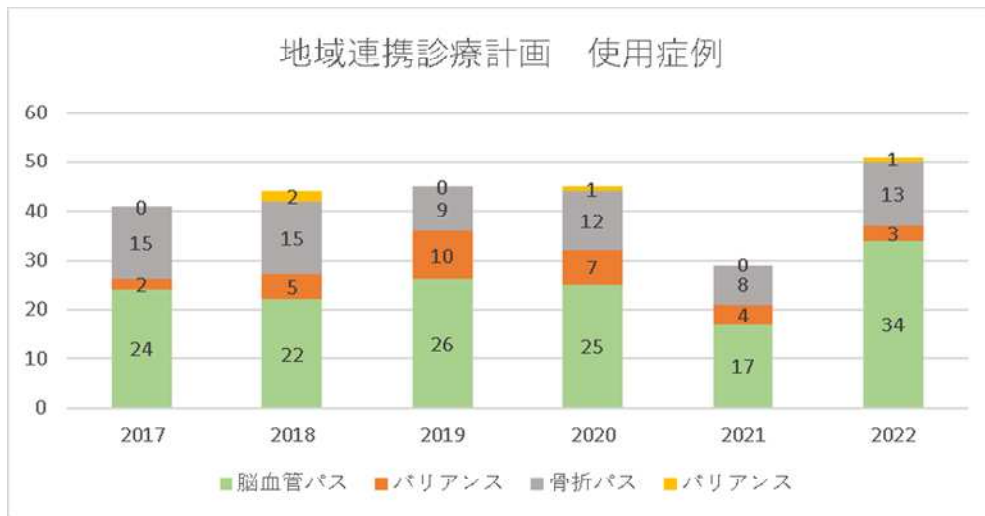
入院受け入れ前にキャンセルとなられた方が

2021年17人2022年16人とほぼ同程度ある。

同時期に申し込みが重なることで入院調整に時間がかかることもあるが

申込3日以内に急変され、転院不可となるケースが多い。

チ) 地域診療連携計画(骨折パス、脳血管パス運用実績)



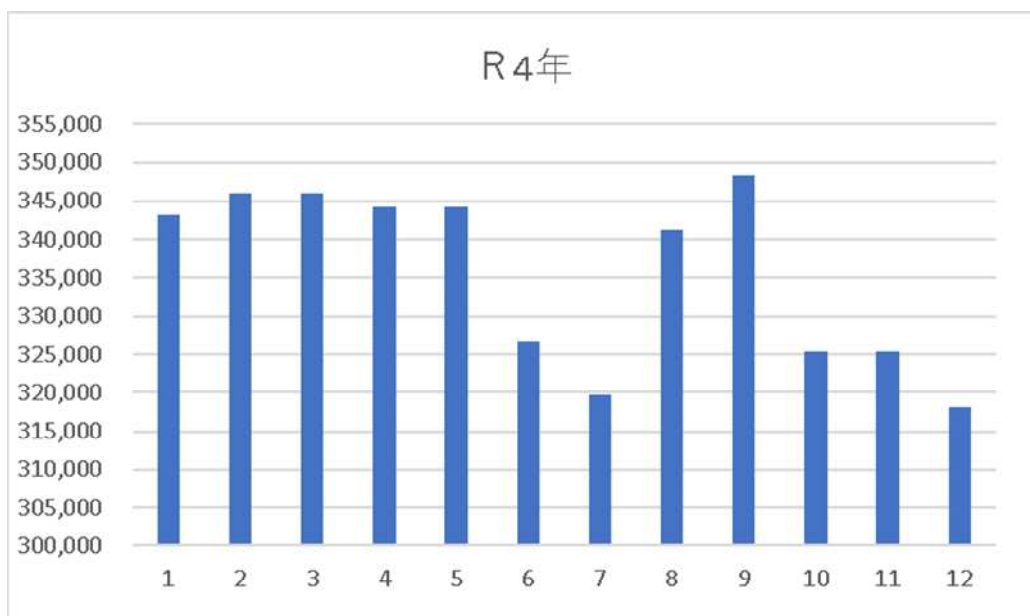
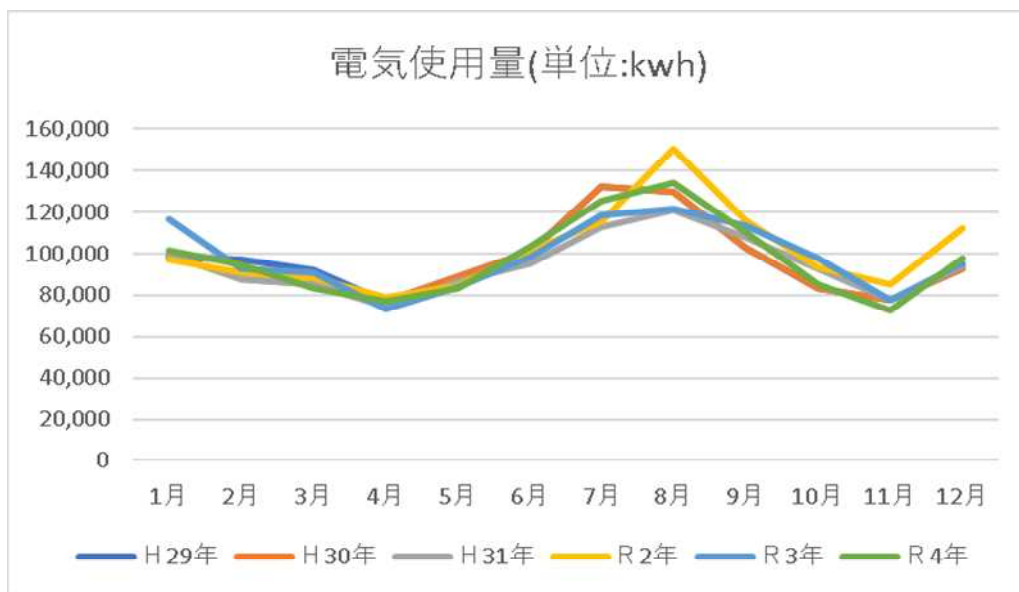
コメント

県立延岡病院より紹介された脳血管パス、大腿骨骨折パスの使用症例数の推移。
 2017年から2022年のうち、2021年はパス使用例が少なかった。
 2022年は2017年の調査以降最も多いパス使用件数となった。
 バリアンス例は2019年が10件と多かったが、2022年は骨折、脳血管パスあわせて4件のバリアンスとなった。
 2022年より二次性骨折予防の取り組みを開始するとの連絡が県立延岡病院よりあったが、大腿骨骨折術後の投薬開始事例はなかった。

14. 施設環境

主任 岩崎 幸子

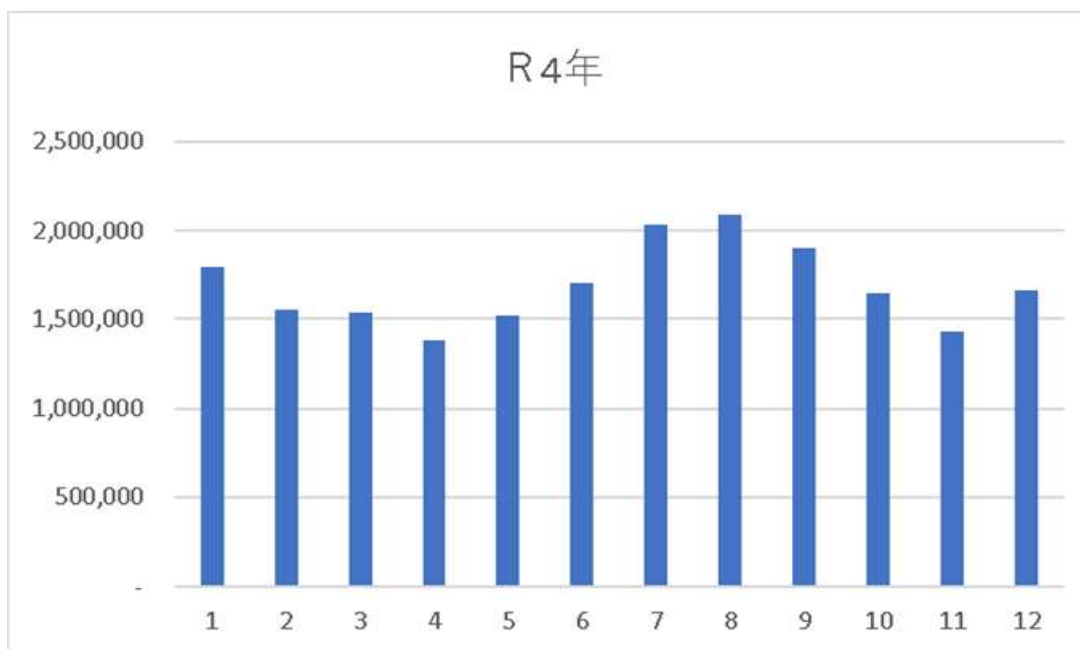
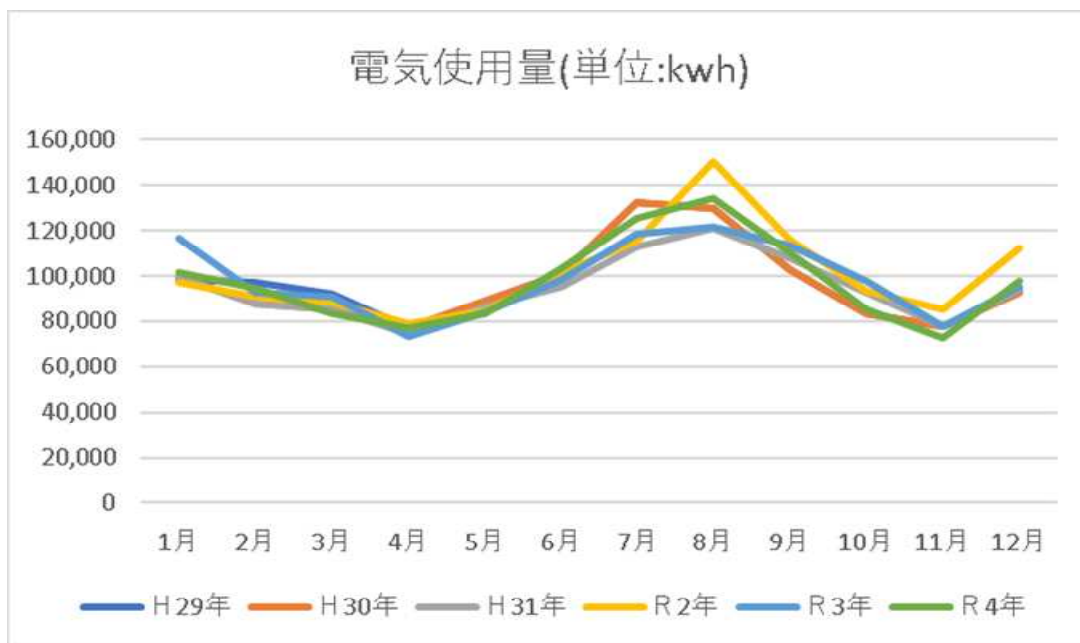
イ) 水道使用量



コメント

大規模割引R4.8月終了 燃料調整額がR3年度は減額R4年度は増額(燃料費調整額は貿易統計における原油価格や液化天然ガス価格などから算出される、その時々平均燃料価格により毎月変動する調整額のこと)確認できる。
 連結送水管工事は9月に終了、連結送水管の施設内接続場所を移設工事をR4年2月実施

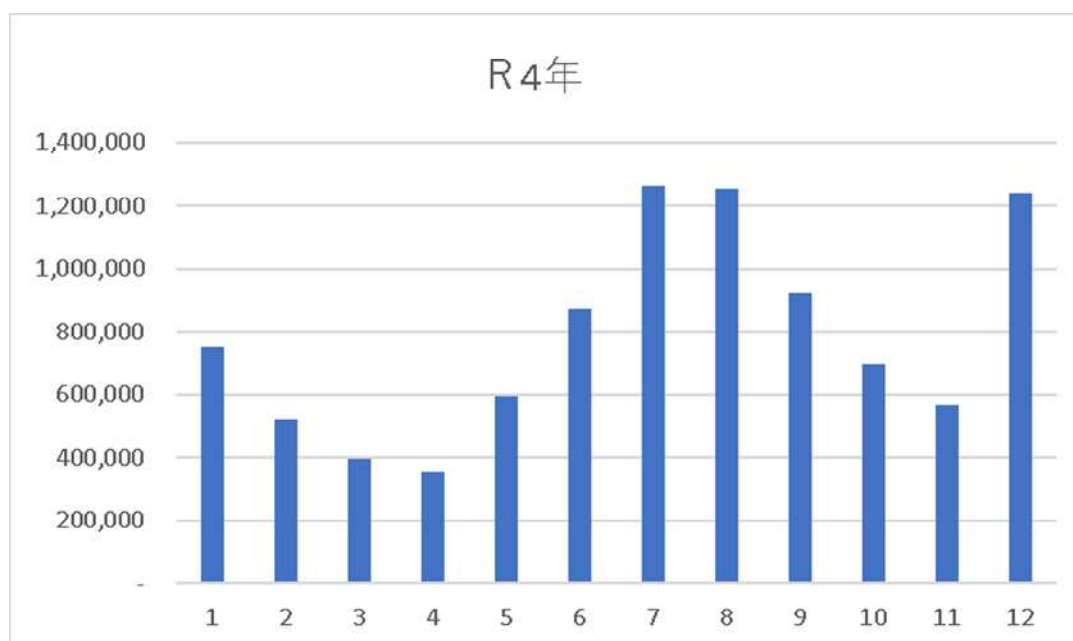
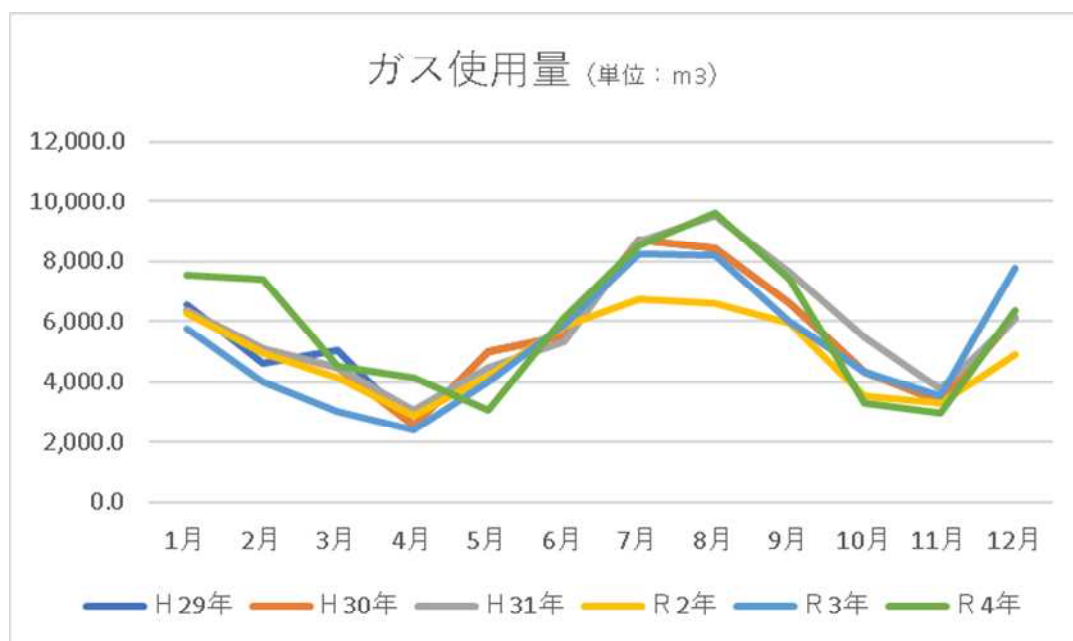
ロ) 電気使用量



コメント

大規模割引R4.8月終了 燃料調整額がR3年度は減額R4年度は増額
 (燃料費調整額は貿易統計における原油価格や液化天然ガス価格などから算出される、その時々平均燃料価格により毎月変動する調整額のこと)

ハ)ガス使用量



コメント

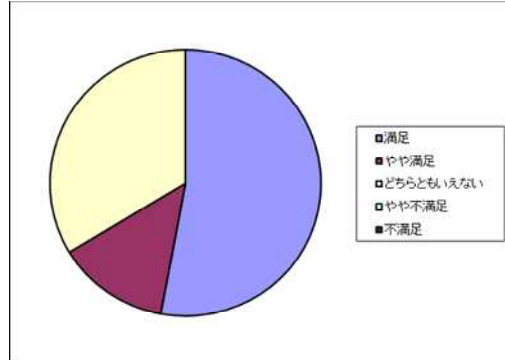
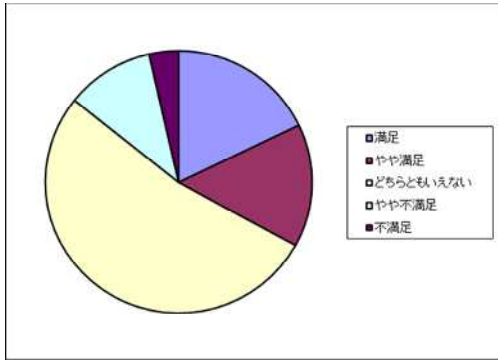
ガス使用状況は、年間を通して電気使用量と波形は全く同じ、
 ガス空調が一部あるためかと思う。
 ガス単価値上げあり

15. クラーク 医事課課長 中武 英之

イ) 外来ゲスト満足度調査

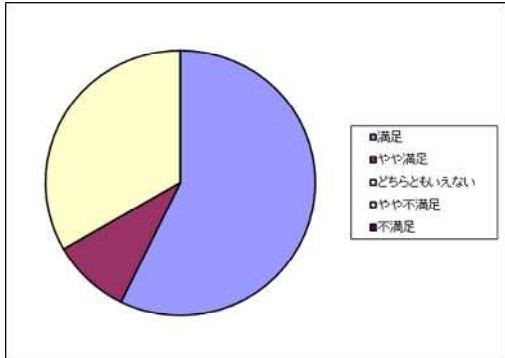
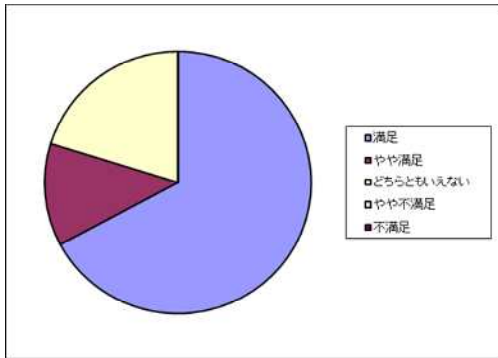
期 間:令和4年1月1日～令和4年12月31日
 対 象:外来
 回答数:119名

1.以前に比べて待ち時間はいかがですか？ 2.受付の対応はどうでしたか？



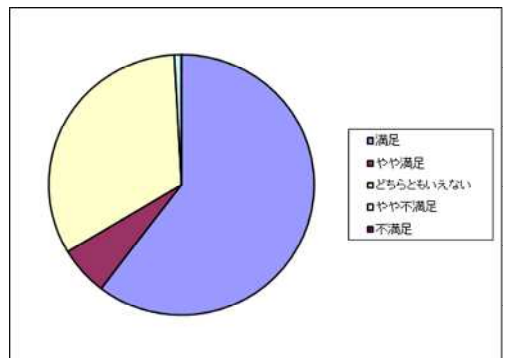
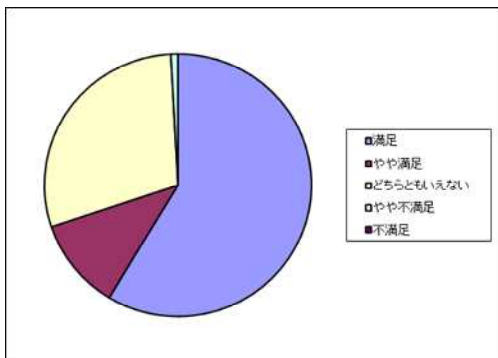
3.看護師の対応はどうでしたか？

4.個人情報の保護やプライバシーに関して
 十分配慮されていますか？

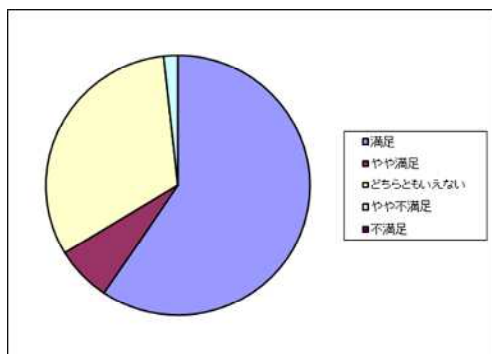


5.検査の際に不快に感じることは
 ありませんか？

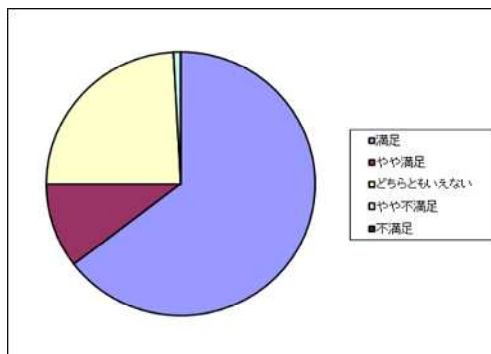
6.医師の診察時間の長さはいかがでしたか？



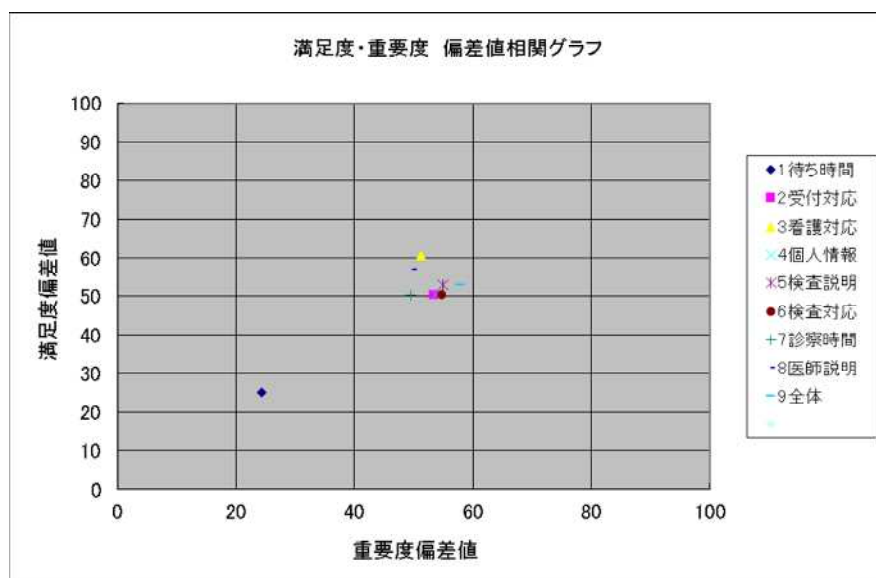
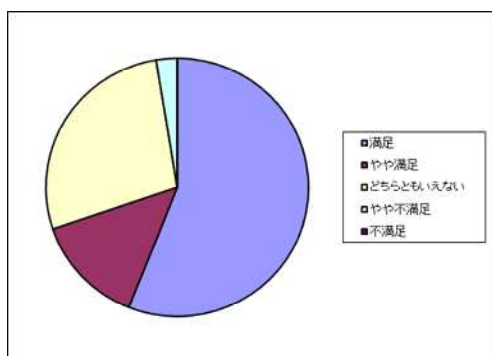
7. 医師より症状や治療計画について
分かりやすく説明を受けましたか？



8. 検査前の説明は十分にありましたか？



9. 当院の外来受診は満足いくものでしたか？



コメント

今年はコロナ影響もありアンケート対象者が少なかった。
外来では感染症対策を徹底的に行い患者さんから「コロナ禍の中で患者同士が色々な対策を講じ気遣いが見られます。清潔でありがたい。」との声もいただきました。

ロ) 入院ゲスト満足度調査

期 間:令和4年1月1日～令和4年12月31日

対 象:全病棟

回答数:364名 前年410名

アンケート内容:

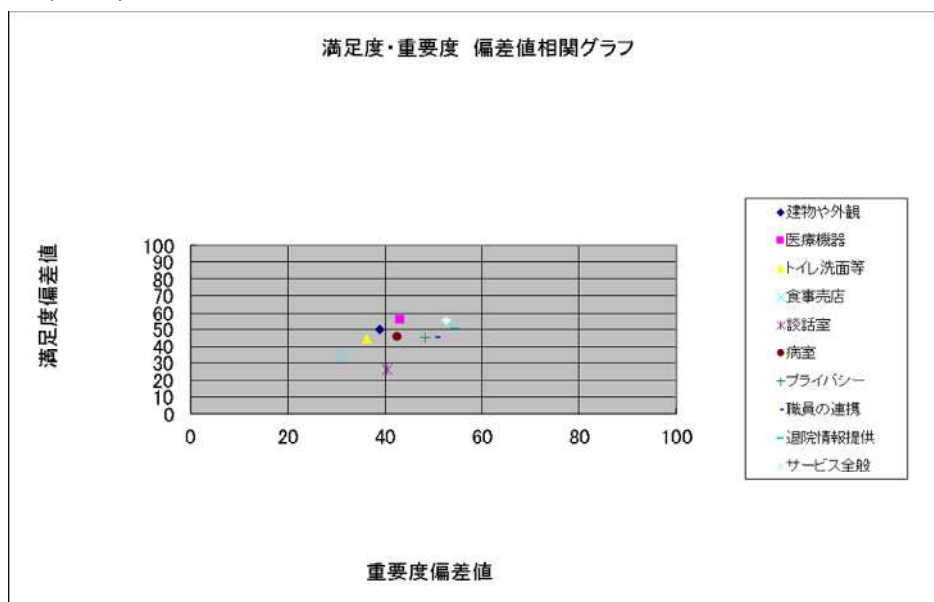
- 1.シーツやベッドは清潔に保たれていますか？
- 2.病室や浴室等は使いやすかったですか？
- 3.医師・職員より分かりやすい言葉等で納得できるまで十分な説明を受けていますか？
- 4.個人情報の保護やプライバシーに関して十分配慮されていますか？
- 5.医師・職員は、患者さんのつらい症状に速やかに対処しますか？
- 6.スタッフの接遇はいかがでしたか？
- 7.心配事があった場合、気軽に職員に相談しやすいですか？
- 8.入浴や排泄などの介助の際の対応はどうですか？
- 9.食事は満足しましたか？
- 10.受けられた診療や治療内容に満足されましたか？

アウトプットの見方

<p><第2象限> 満足度は高いが、 重要度は低い ⇒今の状態をキープ</p>	<p><第1象限> 満足度も高く、 重要度も高い ⇒優等項目</p>
<p><第3象限> 満足度は低い、 重要度も低い ⇒改善順位は低め</p>	<p><第4象限> 満足度は低く、 重要度は高い ⇒改善順位が最も高い</p>

一般病棟

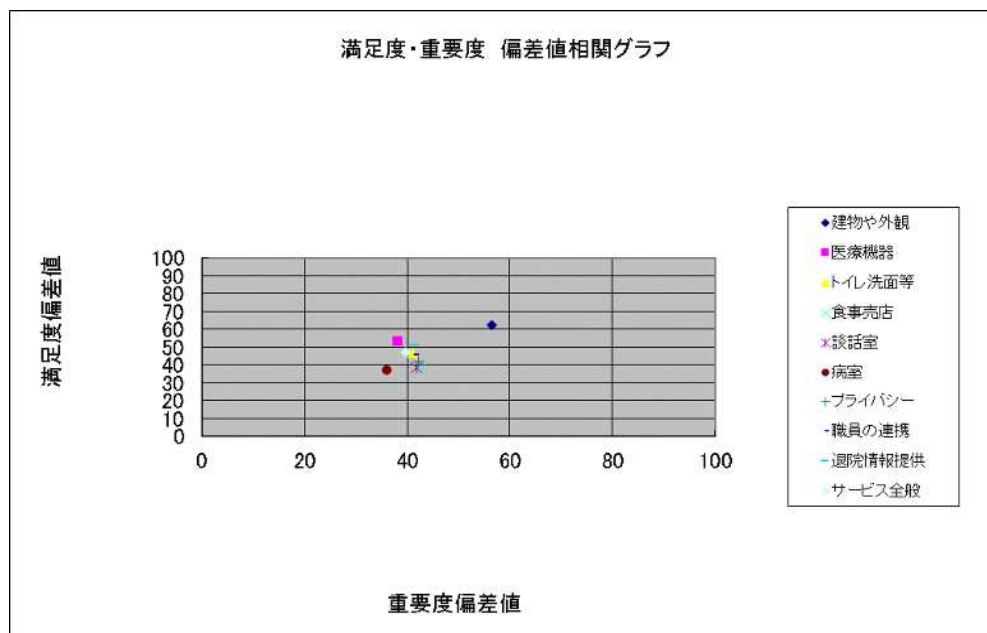
アンケート回収数:115人



談話室の満足度が極端に低い。意見要望にも面会が出来ず状況が掴めないなどの意見があった。この意見を受けてこの年にオンライン面会システムを導入した。サービス全般では満足度が高い背景にFreeWiFiの設置やテレビの無料化、CS番組視聴可能にしたことが取り上げられた。

回復期病棟

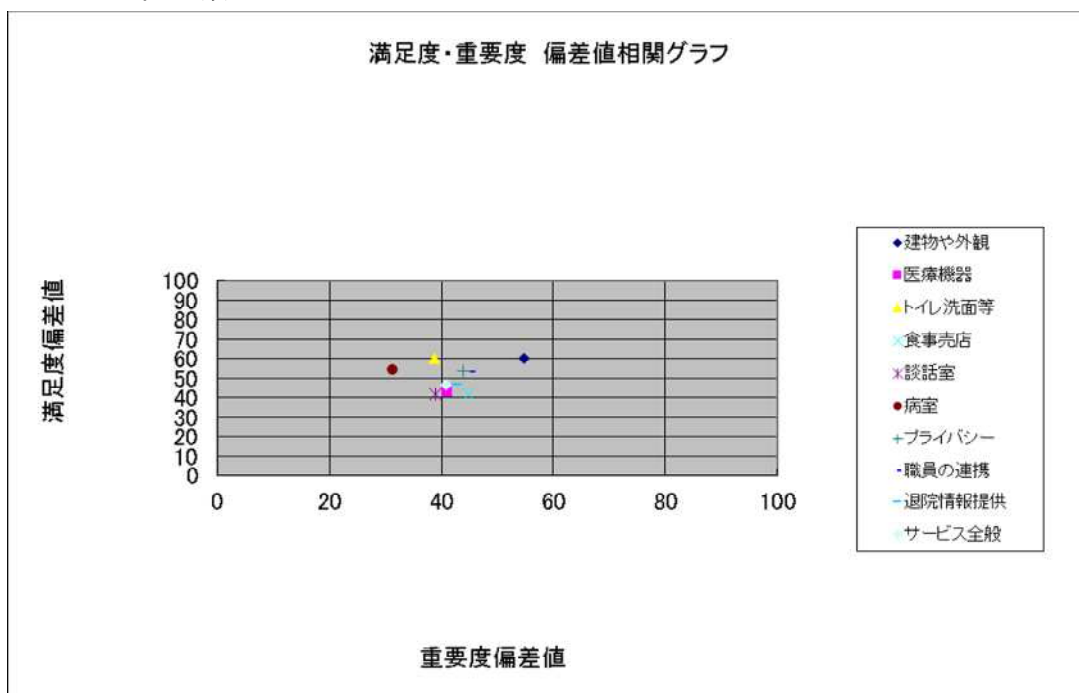
アンケート回収数:190人



建物や外観は重要度も高く、そして満足度も一番高い評価であった。意見の中には、コロナ患者の受け入れ体制の評価が多くあった。食事と同じく満足度が低い結果に。意見に9階での食事で時間が欲しいとのこと。箸を使うリハビリでは慌ててしている感じが楽しくリハビリができていなかった。

緩和ケア病棟

アンケート回収数:51人

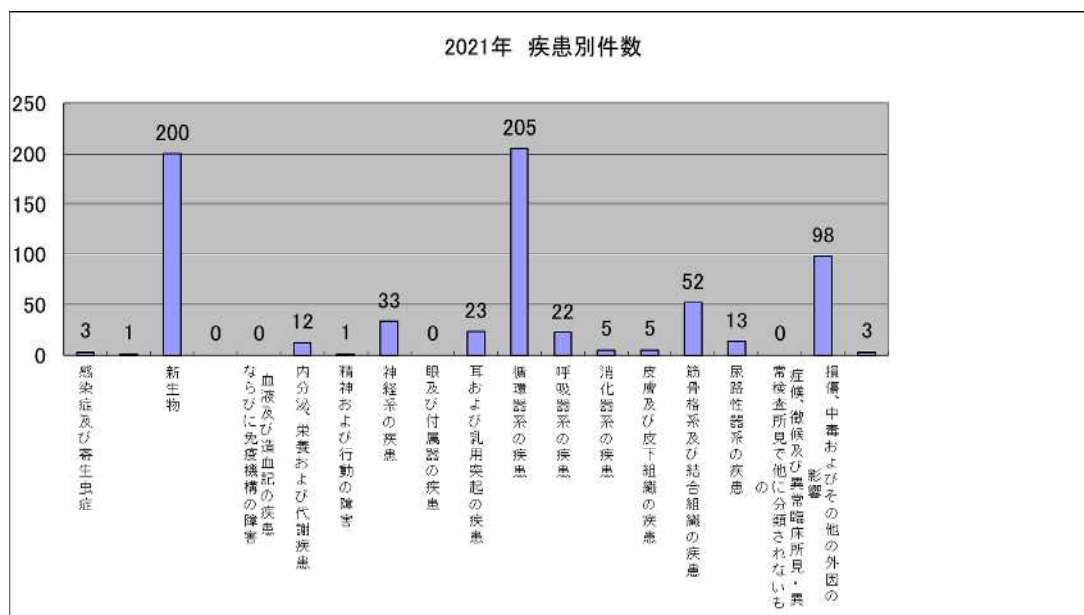


満足度の低さに売店がある。売店が1階にあるため患者家族の負担が考えられる。
また去年同様談話室の満足度が低い。これはコロナによる面会制限の意見があった。
自宅からのオンライン面会等更なる改善が必要と思われる。

イ) 国際疾病分類別

【目的】

当院に入院される方の疾病傾向を知り、医療の質の評価に活用するため



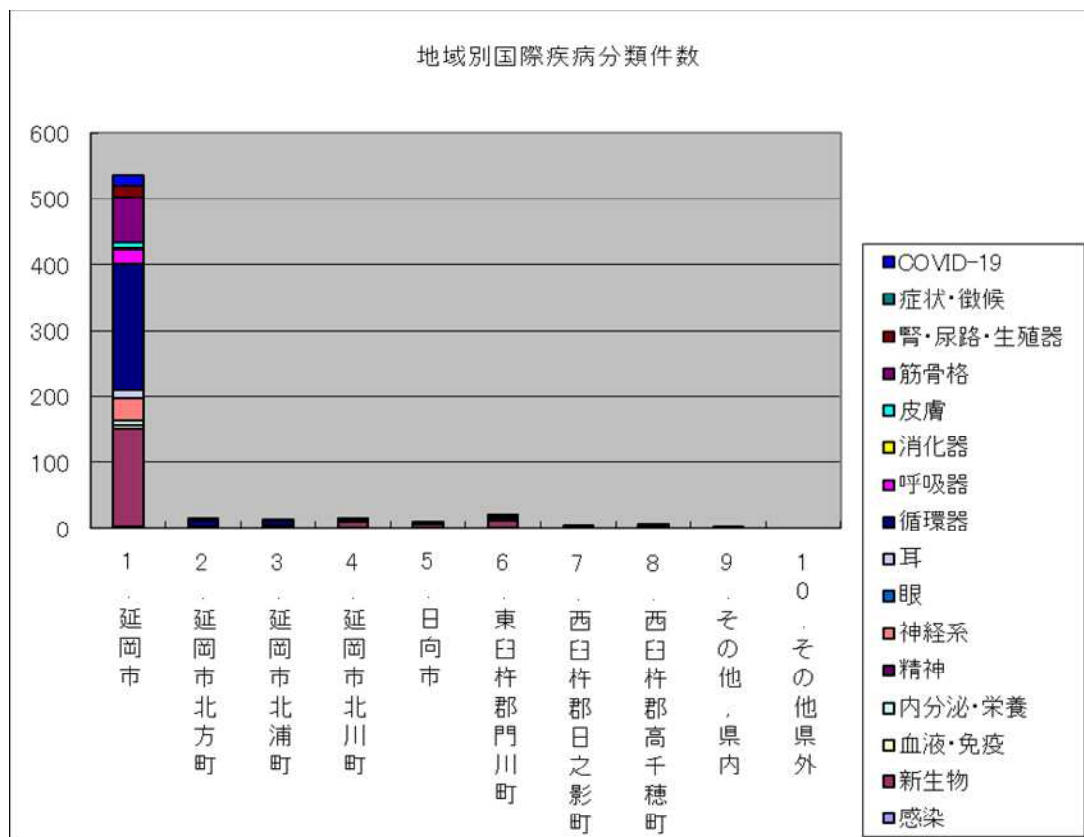
コメント

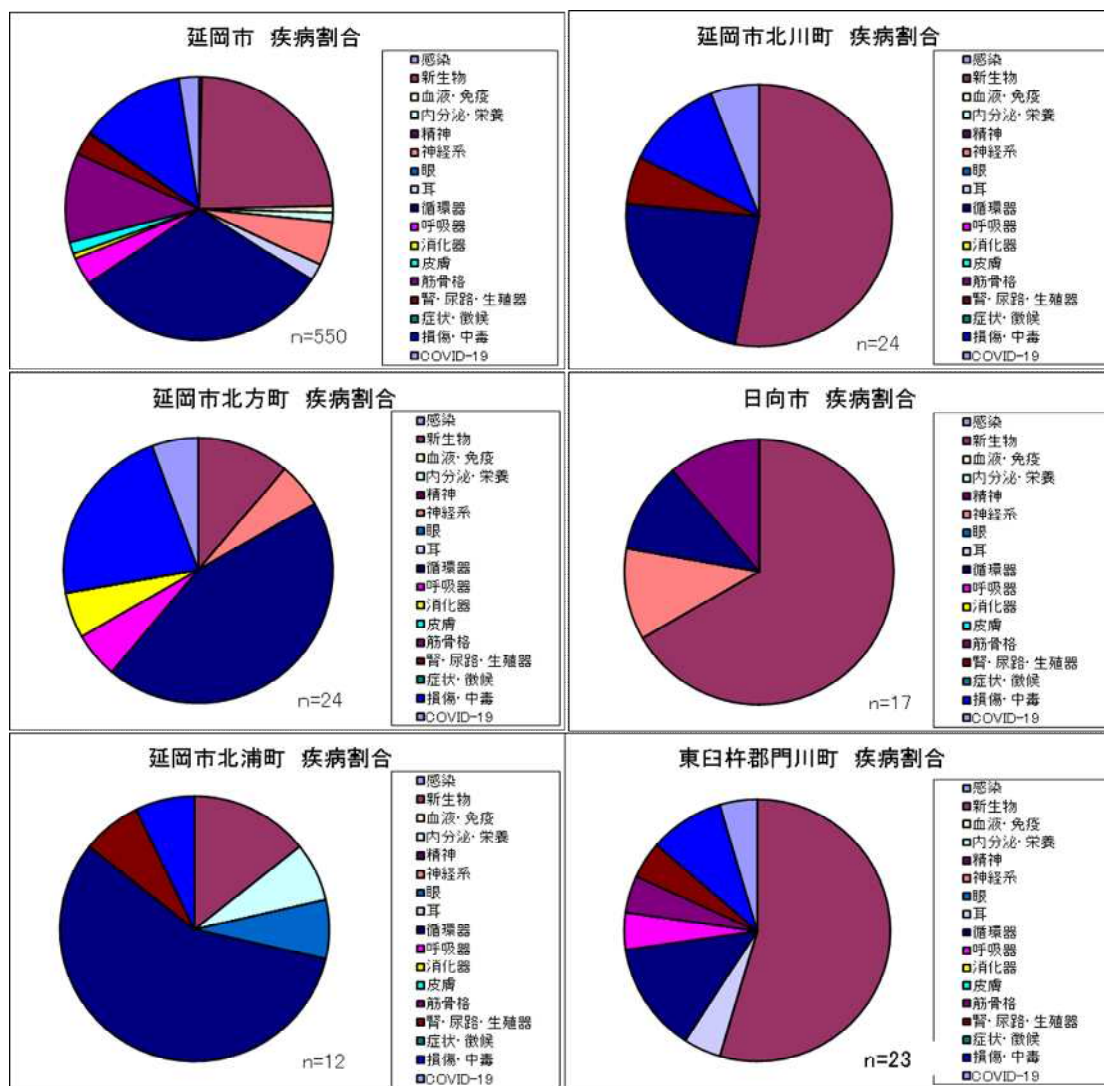
脳卒中輪番のトリアージの為、北浦町、北川町、北方町から搬送され、入院となるケースが増加傾向にある。また、日向市、門川町から緩和ケア目的に入院される方も増加している。高速道路の整備により、30分以内での行き来が可能となり利便性が増した為と考えられる。

ロ) 地域別国際疾病分類

【目的】

当院は高速道路の近くに立地しているが医療圏に影響があるかを考察する



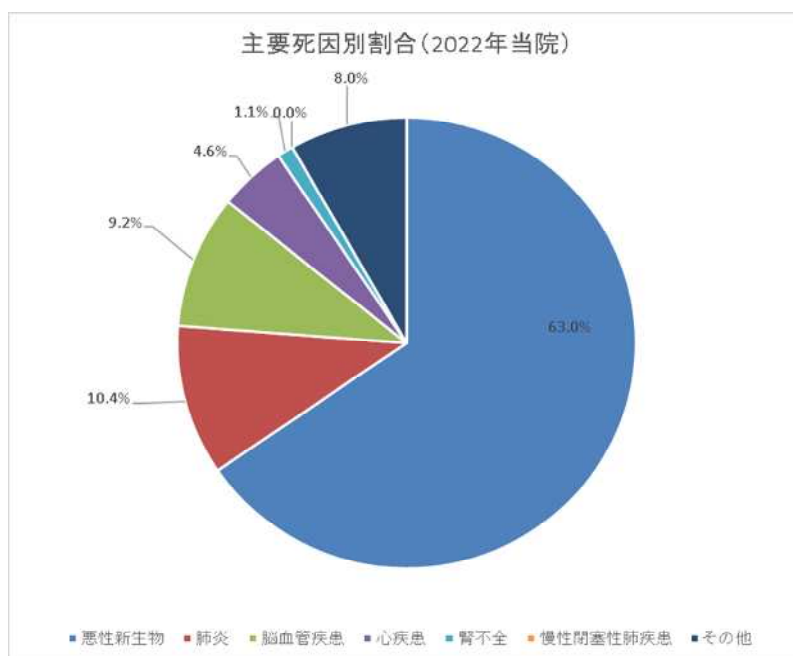
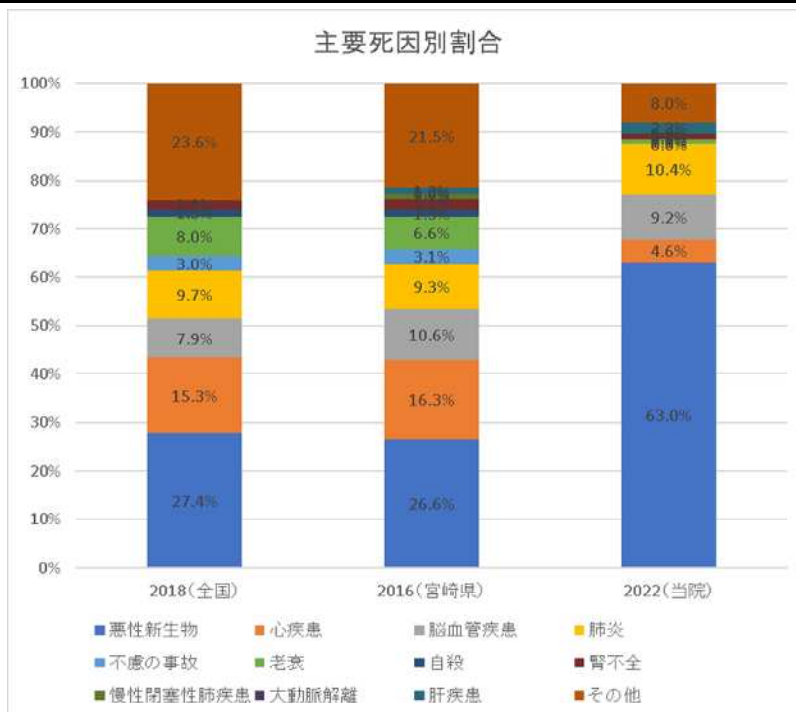


コメント

脳卒中輪番のトリアージの為、北浦町、北川町、北方町から搬送され、入院となるケースが増加傾向にある。
 また、日向市、門川町から緩和ケア目的に入院される方も増加している。
 高速道路の整備により、30分以内での行き来が可能となり利便性が増した為と考えられる。

ハ) 死因別割合

【目的】
 当院の死因別死亡数の割合を把握し、宮崎県、全国と比較する

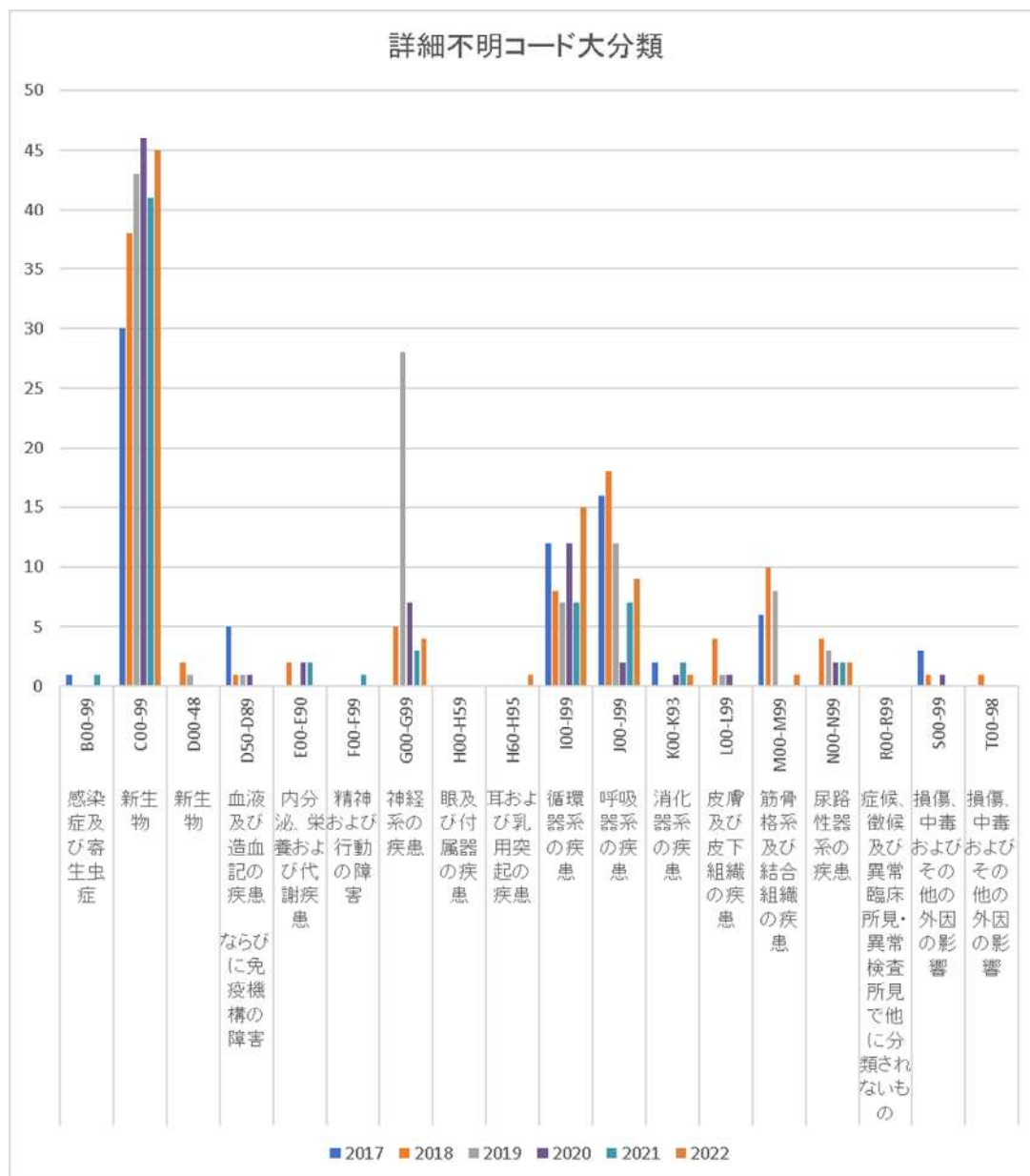


コメント
 当院の死因で目立つのは悪性新生物で63.0%と高い割合となっている。

二) 詳細不明コード分類

【目的】

ICDコードの「部位不明・詳細不明コード」の使用状況を把握し、使用の削減に務める



コメント

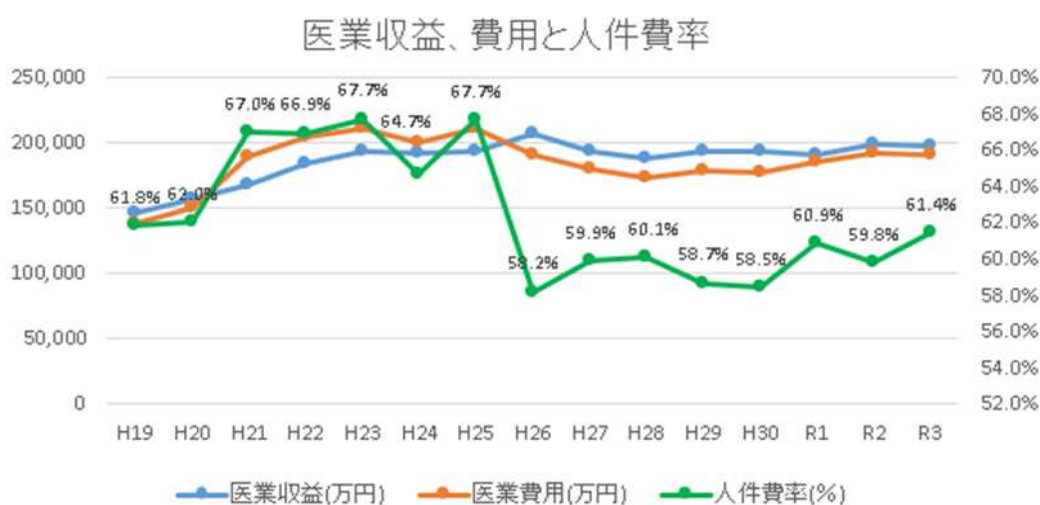
全体的な数は昨年度とあまり変化は見られないが、新生物の詳細不明コードが増加傾向にある。と思われる。また、当院の緩和ケアでは他医より癌の術後の患者を多く受入しているため、詳細不明コードとなるケースが多かった。2020年が減少したのは、他医との情報共有や連携を図ることにより、詳細な情報の収集に努め、職員に対する傷病名の周知、診療委員会や「適切なコーディング委員会」の活動成果だと思われる。

17. 経営管理 事務長 高見 広樹

病院を運営することも企業活動と同じ経営という側面があることに直視しなければなりません。医療はとかく「赤ひげ」とか「そろばん」などと、経営を医師が行なうことを蔑んで揶揄されることもありますが、現在の「医は仁術」として成り立たせる為にも経営の安定は欠かせない要因です。しかし、経営を優先するが余り、医療がその本質より外れては意味がありませんが、逆にその本質より外れない医療を行なう為にも、経営を安定させることが、経営のための運営にならない医療を行なう上で、重要と考えています。例えば必要のない検査や投薬・入院費などを強要しない経営が大切です。

イ) 医業収益 費用と人件費率

【目的】
 安定的な経営を分析するために、支出の大半を占める人件費の推移を分析すること

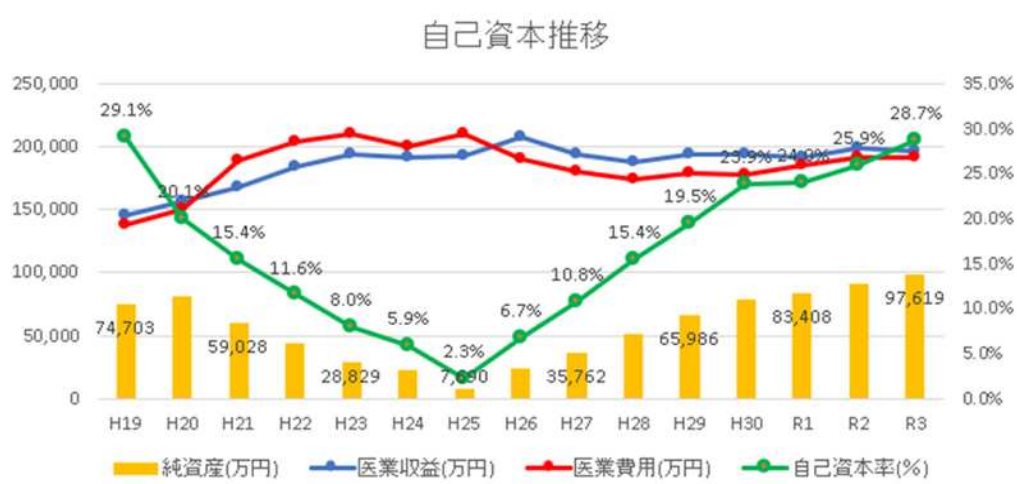


コメント

平成21年度新病院へ移行してから5期人件費率は高く、医業収益と費用が逆転している。平成26年度から人件費を見直しを行い、黒字経営のきっかけとなった。久康会が安全に経営するために人件費率は62%以内にコントロールする必要がある。令和3年度医師2名雇用した。医業収益は19億8000万円の横ばいであり、人件費率は増加した。

ロ) 純資産 自己資本率推移

【目的】
 安定的な経営を分析するために、支出の大半を占める人件費の推移を分析すること



コメント

平成21年度新病院へ移行し5期連続で純資産額は低下した。平成26年より経営業務改善を図り令和2年度まで7期連続黒字となった。純資産額は約9億円となり、自己資本比率は26%まで回復した。目標は自己資本比率30%である。平成30年まで繰越欠損金があり法人税の支払はなかったが、令和元年度より法人税の支払が再開された。自己資本成長は年間約2%である。
 令和3年度には28.7%で推移しており、純資産額は9億7600万円となっている。平成19年度自己資本率29.1%と同等となっているが、建物、医療機械等資産の増加によって純資産額は異なっている。